

2022年9月30日 第3402回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
- <斉 唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
- <ゲスト紹介> *米山奨学生 王 冠博 様
- <ビジター紹介> *横浜ロータリークラブ 杉山 徹 様
- <会長報告> *セブロータリークラブ創立90周年記念式典への参加について
*ガバナー事務所より
- ・インターアクト委員会/IACアクターミーティング開催のご案内について
10月8日(土) 13:00~14:00 委員会
14:00~ アクターズミーティング
於：アイクロス湘南6F
 - ・米山学友会主催「米山クリーンキャンペーン」延期開催のお知らせ
11月5日(土) 9:15~13:00 集合場所：庄治郎丸
 - ・インターアクト年次大会のご案内について
11月23日(水・祝) 10:00~16:00
於：三浦学苑高等学校
テーマ「虹色に輝く未来を 十人十色の考えで」
 - ・第51回ロータリー研究会開催のご案内について
11月21日(月)、22日(火) 於：神戸ポートピアホテル
- <委員長報告> *杵渕会計より2021-22年度収支会計報告
*三堀監事より2021-22年度会計監査報告
*椿会員より新会員の集い 報告
*親睦活動委員会
- ・椿委員長より親睦旅行会のご案内について
- *社会奉仕委員会 加藤(淳) 委員長より
- ・ピンクリボン横須賀2022について
 - ・ポリオ根絶募金活動について
- <幹事報告> *ロータリー米山記念奨学会より豆辞典について
- <出席報告> *出席委員会 加賀本委員より9月30日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メークアップ数	出席率
116名	107名	76名(6名)	31名	5名	75.70%

<ニコニコ報告>

- ・杉山 徹 様(横浜ロータリークラブ) 横浜RC NHKニッパツの杉山と申します。いつも横須賀の皆様には大変お世話になっております。本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。
- ・三 役 米山奨学生 王 冠博様、本日の卓話宜しくお願ひします。
- ・田中、梁井、大野 隼、松本 剛、比 護、永 井、福 西、岡田 隼、八 巻、波 島、新倉 隼、江 口、徳 永、齋藤 隼、鈴木 豊、杉 浦、前 川、猿 丸、江 沢、根 岸、岩 崎、小山 隼、佐久間 各会員
米山奨学生 王 冠博様勉学に励む中、本日の卓話ありがとうございます。卓話楽しみにしています。
- ・三 役 横浜ロータリークラブ 杉山 徹様 例会をお楽しみくださいませ。
- ・長 尾 会員 横浜RC 日本発条(株) 代表取締役副社長 杉山 徹様ようこそ横須賀ロータリーク

ラブへ（慶応大学工学部同級生です）

- ・平 松、土 田 両会員 誕生月祝いとして
- ・土 田、Loknath 両会員 入会月祝いとして
- ・児 玉、椿、大野 備、長谷川、石 田、Loknath、大 石、加藤 備、八 卷、波 島、新倉 備、勝 間、前 川、笠 木、江 沢、加賀本、濱 田、田 邊、小山 備、土 田、鈴木 備 各会員
本日午後5時30分より「ピンクリボンよこすか2022」の開催です。三浦学苑吹奏楽部の演奏でスタートします。イベント参加、運営お手伝いの会員皆様、皆で楽しみながら啓蒙活動を成功させましょう。
- ・馬 場、八 卷、波 島、新倉 備、上 林、三 堀、濱 田、小林 備、平 松、杵 渕、谷、北 村 各会員
V T T特別委員会の皆様、手術から現地医師へのセミナーに至るまでの献身的な活動大変お疲れ様でした。現地活動や子供たちの様子に触れ、V T T活動の素晴らしさを改めて認識するとともに、今後とも益々の支援活動を継続したいですね。有難うございました。
- ・2番テーブル濱田マスター、中村 備 サブマスター 9月20日ホテルニューポートヨコスカにおいて2番テーブルミーティングが開催されました。三役と三宅さんにもご参加頂き、普段お話しできない方達とも美味しいイタリアンで親睦を深める事ができました。
- ・小 平、木 村、梁 井 各会員 9月20日にホテルニューポートにて2番テーブルミーティングを開催しました。美味しく、楽しい時を過ごしました。
- ・3番テーブル藤村マスター、山下サブマスター 昨晚ホテルニューポートヨコスカで3番テーブルミーティングならぬテーブルお別れの会を盛大に開催しました。会長・副会長・幹事に三宅さん、勢揃いで大変楽しい会合になりました。メンバーの皆さん3カ月間ありがとうございました。
- ・五十嵐、植 田、勝 間、土 田、飯 塚、澤 田、前 田 各会員
3番テーブルミーティングを昨日、ホテルニューポートヨコスカで、前田会長、長尾副会長、瀬戸幹事、三宅さんに出席いただき開催致しました。藤村マスター、山下サブマスターご苦労様でした。おいしいお食事有難うございました。
- ・長 尾 会員 9月20日2番テーブル、9月29日3番テーブルミーティングをホテルニューポートヨコスカ1階サルスで開催いただきありがとうございました。
- ・北 村 会員 関口会員よりポリオ根絶募金を預かりました。昨年より毎月、会社店舗にて募金の呼び掛けを頂いており皆様にお知らせします。

<卓 話>

米山奨学生 王 冠 博 様

皆様、こんにちは。米山奨学生の王冠博です。

まず、初めにフォルモサーという言葉についてお話をさせていただきます。台湾人にとって、フォルモサーという言葉は、台湾の教科書、歴史の教科書を開いたら、まず最初に目にする言葉です。その昔ポルトガル人が船で太平洋へ渡った際、台湾の島の美しさに感動し、ポルトガル語で「美しい島」：フォルモサーと言ったそうです。現在でもヨーロッパやアメリカの方々は台湾のことをフォルモサーと呼ぶそうです。

簡単な私の自己紹介をさせていただきます。台湾の台中から来ました。高校まで台湾で勉強し、2016年10月に日本に来て半年間東京で日本語学校に通っていました。2017年4月に神奈川歯科大学歯学部に入學して、今は6年生です。家族構成は、父、母、と弟が一人います。父は医者で、母は元々看護師で、病院で父と知り合い結婚して今は公務員の仕事をしています。弟は去年大学を卒業して、今年から手術室担当の看護師の仕事をしています。部活は茶道部と国際ボランティア部をやっていました。茶道部は友達のお誘いで入りました。元々日本の文化が好きなお茶のたて方とお作法を習うことがとても面白かったです。部活の時は茶道だけに集中できて勉強や生活などのことを考えなくていいので、自分にとってお稽古の時間は癒しでした。学園祭にも出店し、お客様にお茶をたてることで、おもてなしとはどのようなものかを少し理解できました。また、余談ですが友達の実家にお邪魔した際、友達のおばあさんがいらっやあって、たまたま茶道の専門家だったらしく大盛り上がりで3時間もお話をしていました。その間、その友達は、3時間という長さに寝落ちしてしまいました。国際ボランティア部に入ったのは、元々台湾にいる頃からボランティア活動をやっていたので、日本でもそのような活動を継続したいと思ったからです。老人ホームでの衛生教育、市内の歯の健診を手伝ったりして、タイにあるマヒドン大学の大学生とともに、地方の小学校で口腔衛生教育を行いました。ほかに、タイの大学生と、各国の医療体制の違いや文化について議論し、発表しました。

次に自分の趣味ですが、読書が好きで、活字が本当に好きです。特に日本語。それと、旅行やお祭りも好きで、特に日本の阿波踊りが凄く好きです。また、富士登山やマラソンなども経験し、本当に日本を満喫しております。日本の文化に魅了されるきっかけとなったのは、神戸市立葺合高校との交流会で、学校側の接待役として選ばれたことです。その際に、簡単な英語と日本語を使って、はじめて自分と同世代の日本人と話をしました。彼らが話した日常や学校生活などのことから、日本という国に対して興味が湧いてきて、それが私にとって非常に印象的な経験となりました。大学受験が上手く行かなかったことで、親から海外への留学を提案されました。私はすぐ日本へ留学を決めて、大学の入学試験の準備を始めました。何故留学先を日本にしたかという、それは日本の文化が好きで食べ物、祭り、神社など、高校生の時からいつか日本へ行って色々体験したいと思っていたからです。そして、日本人の友達を作ることを最優先の目標にしました。日本人が語る、日本のことを聞きたいと思いました。ただの観光客のように景色が綺麗で食べ物がおいしいと思う程度で留まりたくないと思いました。日本の良さや価値はもっと深いところにあると思いました。日本人の暮らしや人間性こそ私が最も知りたい、興味を持っていることです。そのため、自分が日本の大学で勉強ができることを知った時は凄く嬉しかったです。無事に入学試験を合格でき、日本での生活が決まった時は、本当に嬉しく、2017年に神奈川歯科大学歯学部に入學致しました。入學してからは日本人と仲良くなるために日本人のコミュニティに溶け込めるよう努力致しました。最初は敬語で話していた友達も仲良くなるにつれ、敬語を使わずに喋れる間柄になりました。

次に、台湾の文化や歴史についてお話をさせていただきます。台湾と聞いたら何を思い浮かべますか。多くの人は、小籠包、ナイトマーケット、九份、タピオカなどを考えてしまうのでしょうか。これらは確かに台湾の文化を代表していると思います。しかし、台湾の魅力はまだあります。台湾は多くの国に統治され



たことがあって、スペインから始まり、オランダ、大明帝國、大清帝國、日本、中華民国があります。これだけ多くの国の統治により、その時の文化や習慣は少なからず残っていました。その上、台湾原住民も10族以上に存在しているため、台湾の社会と文化に多様性が見られます。具体的な例を挙げると、台北の地下鉄の車内放送は基本4種類の言語を使っています。それらは客家語、台湾語、中国語、英語です。また、一部の東部の鉄道の車内放送では、地方の原住民の言語を使っています。多様性は言葉だけでなく、食、服、土地、文化などにも反映しています。今日はその中の日本と台湾、台湾と中国の関係に注目して話を進めていきたいと思います。

私が日本に来てから、よく聞かれた質問が二つあります。一つは、何でアジアにおいて台湾に親日の人が多いか、もう一つは、台湾は中国と何が違うか、この二つの質問です。台湾と日本の関係、台湾と中国の違いを説明するために、台湾の歴史を振り返りたいと思います。台湾における、義務教育の内容をベースとしてお話しします。まず、時間を1895年まで巻き戻します。この年、大清帝國（今の中国）は日本に戦争で負けて、台湾が日本の植民地となりました。その時結んだ条約が下関条約、当時の日本の首相伊藤博文によって結ばれたものです。台湾の学生なら伊藤博文のことを知らない人はいないでしょう。この時から50年に渡る日本による統治が始まりました。最初の統治はあまりうまく行きませんでした。反抗組織や原住民による抵抗で日本の兵士や警察の人々が多く亡くなりましたが、それより大変だったのは伝染病です。戦いによって亡くなった人より、多くの日本人が伝染病により亡くなりました。当時の日本にとって、台湾は扱いづらい場所でした。フランスに一億円で売る話もできてきました。それを解決するため、当時の民政局長後藤新平が人口や文化について調査を行い、基本統治の方針を策定しました。その上、台湾で公衆衛生事業を始め、教育施設を設立することにより環境の改善を図りました。民衆に対する予防注射、下水道システムの整備、台湾電力会社、銀行の設立、これらは台湾の近代化を一気に進めて、その影響は今の台湾でも伺えます。もちろん良いことばかりではなく、当時の台湾人は様々な方向から迫害を受けました。教育や仕事の差別、種族による差別、日本人が優遇されるのが当時の台湾人にとっての当たり前でした。しかし、第二次世界大戦が迫ってきた頃から、日本政府がとる行動が大きく変わりました。皇民化(こうみんか)運動が始まりました。その一つとして、台湾人に強制的に日本語を使わせて、日本語以外の言葉を全部禁止した政策が実施されました。きちんと日本語を家庭内で使う人たちは、家の前で国語家庭というプレートを掛けることが許されます。これによって、より多くの食糧が分配され、いい仕事がもらえます。戦争時の人たちにとって毎日の食べ物は何より大切で、このようなプレートが多くの家の前に飾られていました。1920年以降に生まれた台湾人にとっては日本は自分の故郷で、敗戦した際は自分の国が負けたように泣きました。多くの台湾人と原住民は日本兵として戦争に参加しました。敗戦後にも一部の台湾人は降伏に抵抗するための計画を練りましたが、最終的に、それは天皇の意思ではないと政府の高層が抑えてしまいました。それだけ、当時の台湾人は日本のことを母国のように大事に思っていました。それに対し、日本時代より前に生まれた台湾人はようやく自分の祖国に帰れると思って喜んでいました。この50年の日本時代によって、このような世代の断層が生まれました。このように、台湾は日本に対してかなり複雑な感情を抱いています。

ここで日本の話を一旦終え、中国の話へ移ります。ここから主役となる2つの政党が出てきます。ここから出るのは当時の中国政府を代表する国民党、民間から革命を起こした共産党、この二つの政党を覚えていただきたいです。日本時代から時間が進み、第二次世界大戦で勝利を収めた中国（中華民国）ですが、共産党による革命が起きました。中華民国を代表する国民党の軍は戦争でかなり疲弊したことに對して、共産党は戦争中にこの革命を計画したため、戦争中に力と兵を留保していました。その上、地方の農民が軍に加わることによって、国民党は勝てることが勿論できませんでした。共産党との戦争に負けた国民党は台湾まで撤退しました。ここで一旦皆様と考えていただきたいことがあります。緊急事態に面した際に、例えば、火事や地震、まず何をしますか？財布を持って逃げないと死んでしまいますよね。しかし、緊急事態に陥った国民党はお金だけでなく、中国の宝物、文化財、4000年の歴史の中で皇帝や権力者が積み重ねた財宝を厳選し台湾へ持ってきました。4000年分のお宝の量はかなり大量で、持ってくるのも大変な苦労があったことが伺えます。皆様中国の紫禁城をご存知だと思います。自分は写真でしか見たことがありませんが、外観がとても綺麗で立派なお城だと思います。しかし、中にあった中国の歴史的な文物のほとんどが台湾へ持っていかれました。台湾のどこへ持っていかれたかという、台北故宮博物院の後ろにある大きな山の中に置かれています。文化財の数は約70万で、世界中で最も中国の文化財や芸術品を保有しています。三か月ごとに全部のものを順番に展示に出すと、70年はかかると言われています。それくらい多くの文化財産

が保存されているということです。もし中国の歴史や文化財に興味がある方がいらっしゃったらぜひ一度故宮へ足を運んでいただきたいと思います。

話を戻しますが、それから台湾は中国国民党による二次的な殖民を受けていました。台湾を統治したのは台湾人ではなく、外から来た政権でした。当時の国民党は多くの中国人を台湾へ連れてきましたが、その文化や社会の違いによる衝突は絶えませんでした。国民党が行った言論の自由や集会の自由などを制限した恐怖政治と比べて、日本は公共施設を整備し、衛生環境の改善に効果を上げました。当時の台湾人にとって日本時代の方がまだ生きやすかったので、日本に統治されたいという人たちが多くいました。今の台湾人の日本に対する親近感は日本時代日本への帰属意識（戦争時の同陣営であること）や現代日本によるポップカルチャーの輸出、それらに由来すると考えます。

今日は、この場をお借りして台湾と日本の関係性についてもお話ができたことをとても嬉しく思います。今後も米山奨学生として、台湾と日本がより友好的な関係を築けるように架け橋になりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 岡田 圭太